博物館陳列品圖鑑

第五輯

朝鮮總督府博物館

MUSEUM EXHIBITS ILLUSTRATED

VOL. V.

GOVERNMENT GENERAL MUSEUM OF CHOSEN 1933

1 : 30

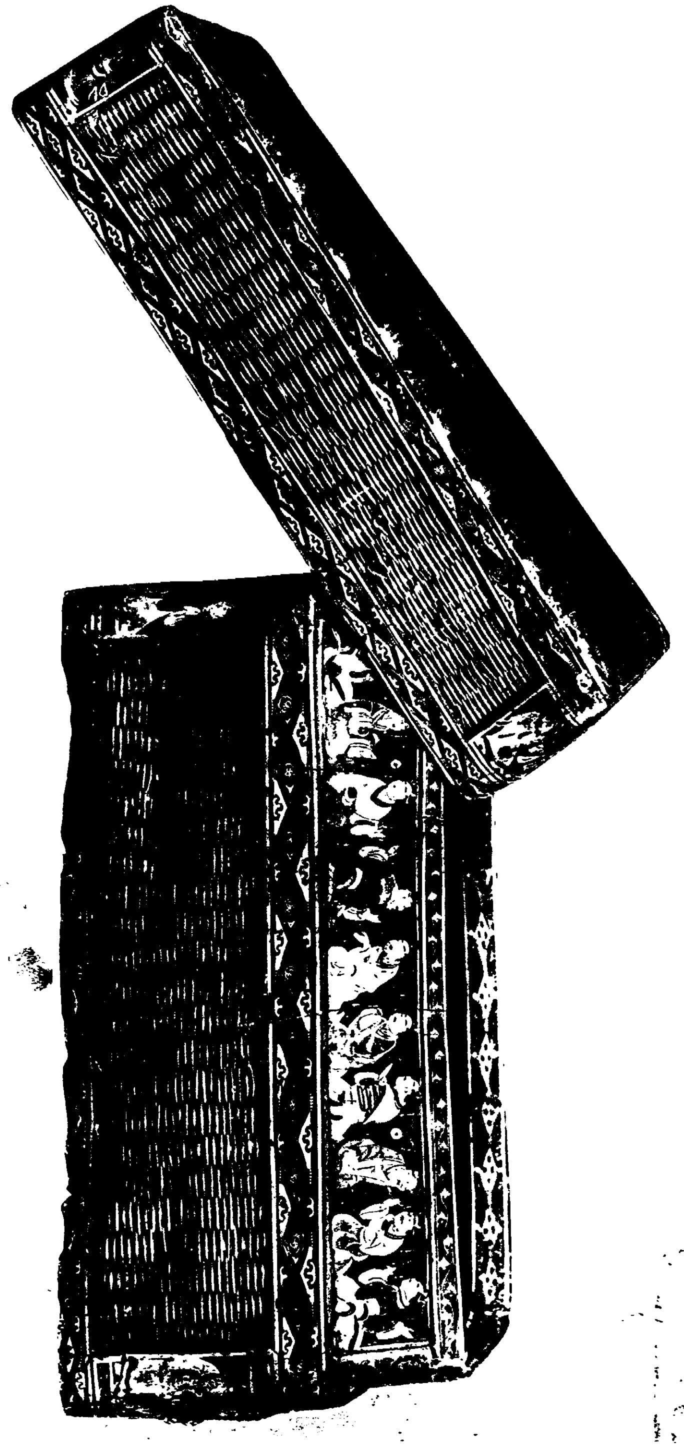
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

069
1

70624

内閣文庫
和書
七二六三四號
二冊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



漆繪人物畫像文篋

—樂浪帶方郡時代—

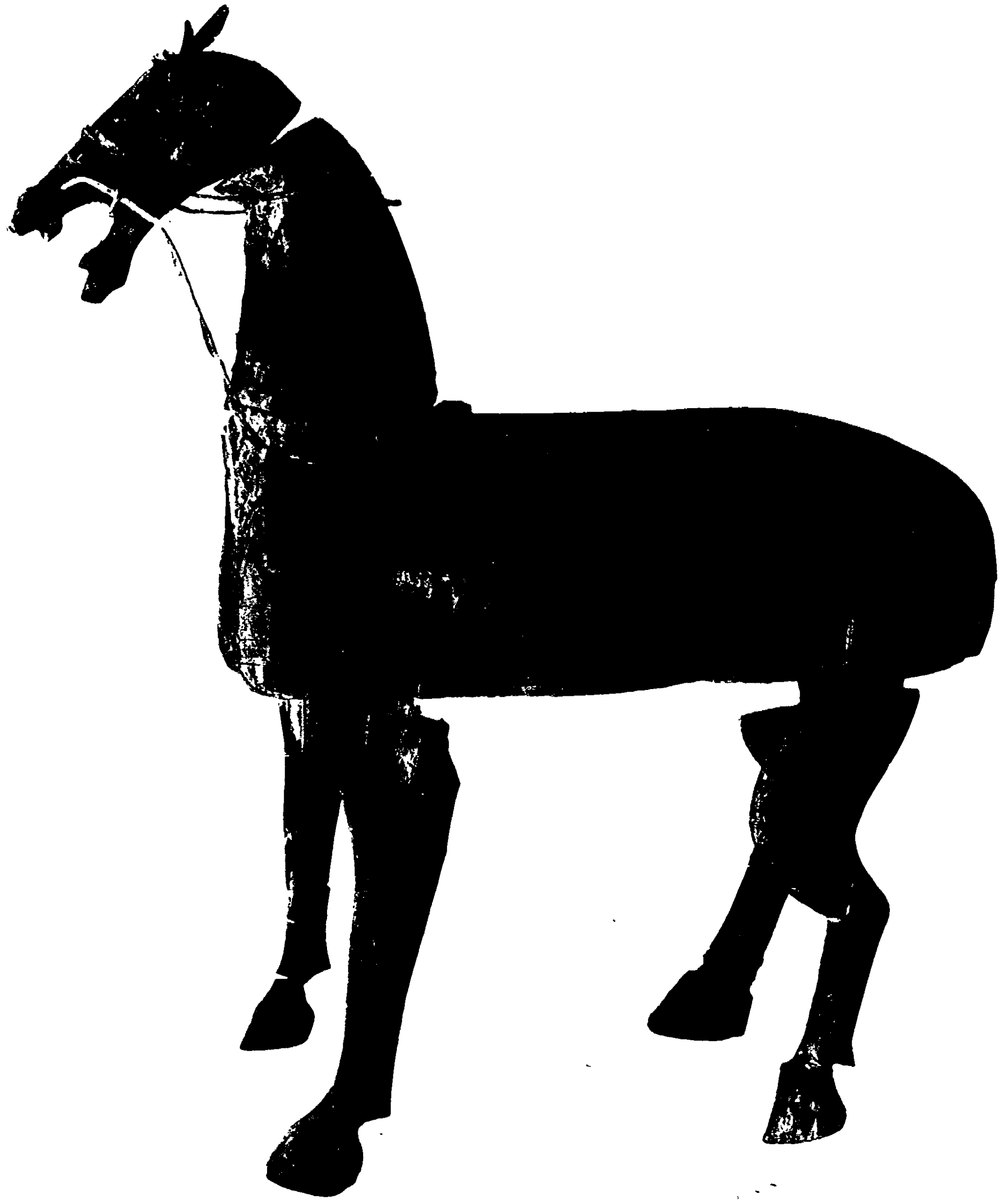
昭和六年秋平安南道大同郡南串面南井里第一一六號古墳より發見したる漆器中の一とす　主體は竹を編みて內外より合せ隅々及び四方には幅廣き緣を施して形を保たしめ　蓋・身共に其の廻り緣及び方立てには人物畫像・連菱文・唐草文を一面に描き漆黑の地文の上に施されたる朱・紅・黃・褐・綠の各色は鮮麗古雅にして二千年土中の物たるを疑はしむるものあり　特に人物像には聖賢・義士・孝子・烈婦の名の旁記せらるゝあり　漢代の確實なる繪畫にして而かも優れたるもの斯の如きを知らず　東洋漆工美術の極致といふべし　約二分之一

Laquered Basket

Han Dynasty

Found from No. 116th Tomb of Nanseiri village, South Heian Province　　About half size

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records



木製馬

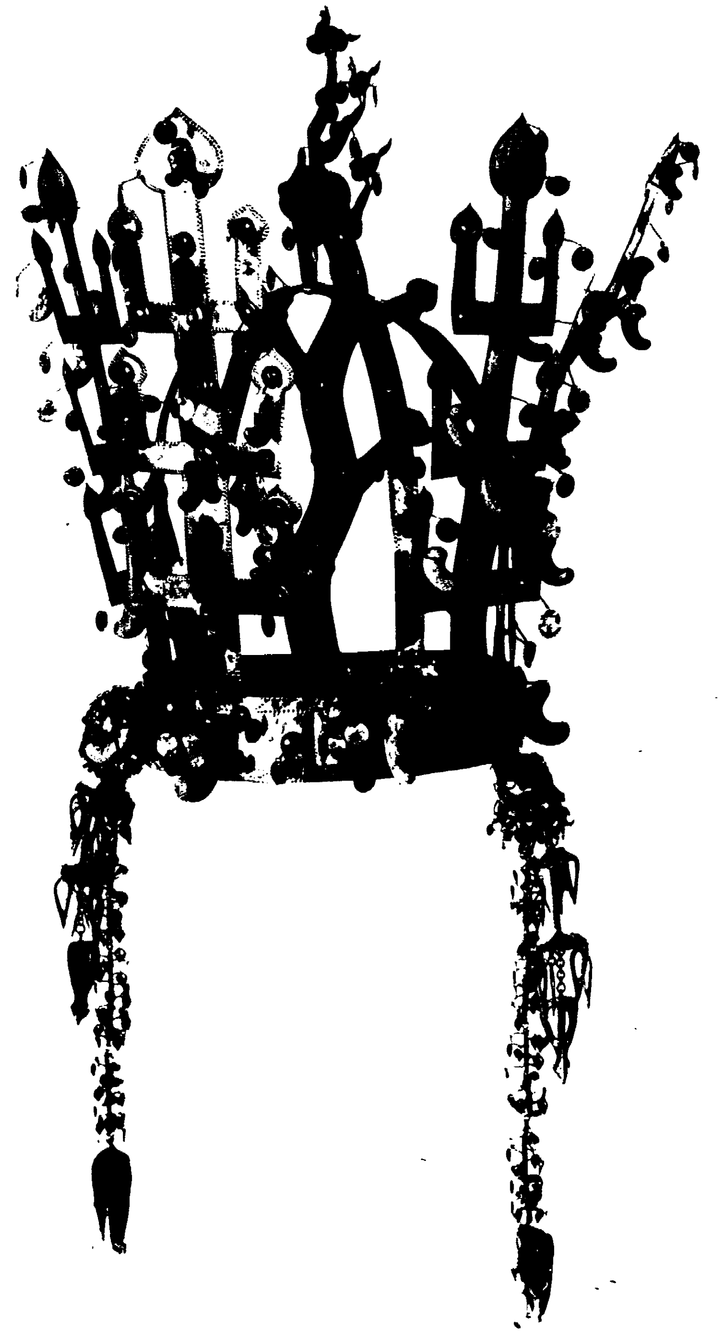
―樂浪帶方郡時代―

前掲畫像漆筺と共に平壤郊外南井里第一一六號墳より發見せられ同型品七個あり　楊柳材を以て彫刻し表面に塗料を施せるものにして其極めて寫實的な姿體は所謂汗血馬の勇姿を想像せしむるに餘りあり　彫刻の手法及び頭・頸・胴及四肢を各別に彫刻して組合せたる構造は支那出土の漢代遺品と稱する陶製馬に酷似するも鬣・尻尾には眞毛を植ゑ　革製馬帶・手綱等を附し且つ鉛製轡を具備することは未だ曾て其例を見ざるものにして　漢代の馬裝を窺ふに足るべき重要なる一新資料とす　高約七〇糎

Wooden Horse

Han Dynasty

Excavated from No. 116th tomb of Nanseiri Village,
South Heian Province　　About 70 cm in Height



純金製寶冠

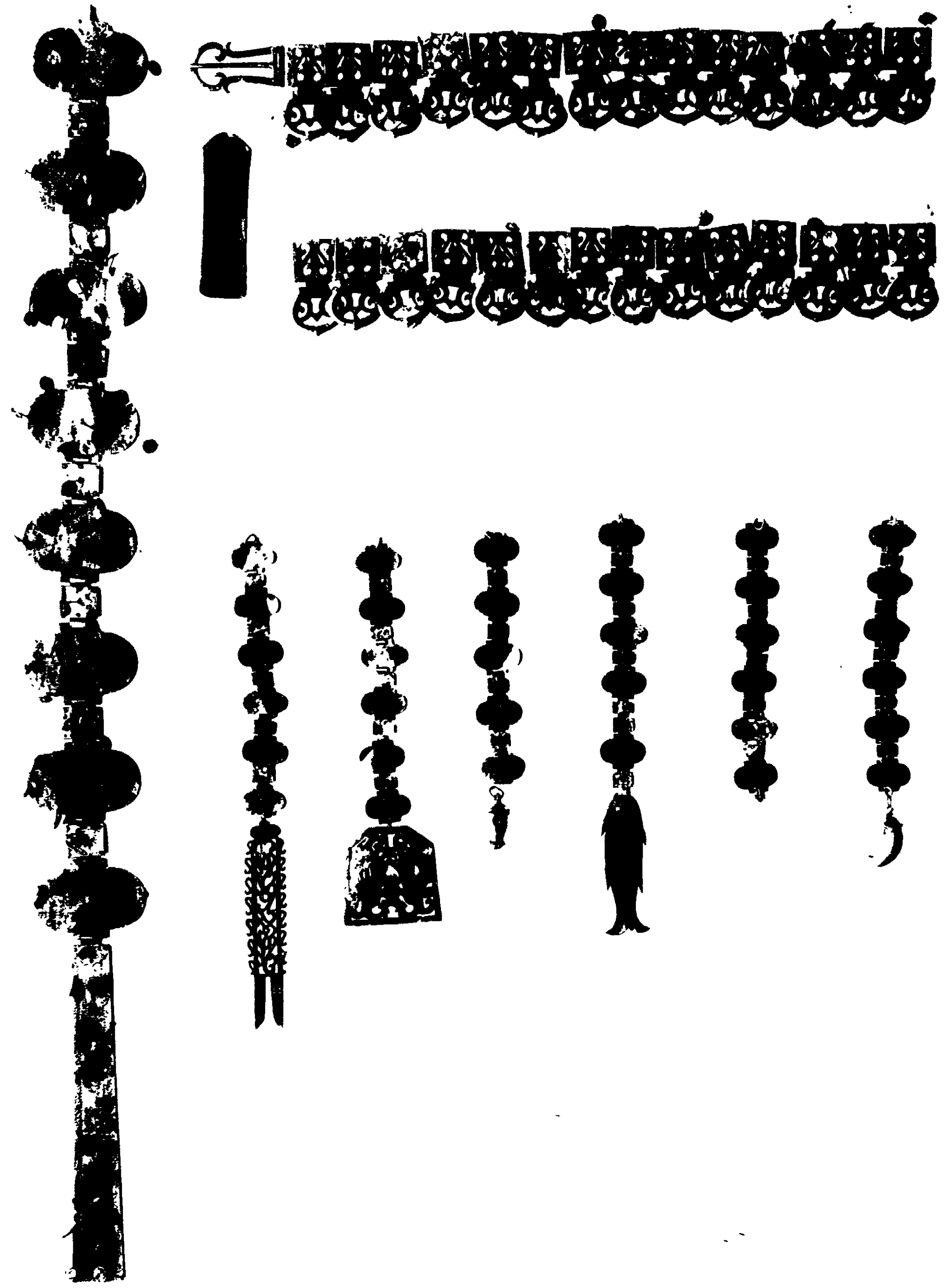
―三國時代新羅―

大正十五年九月　慶尚北道慶州郡邑内路西里の古墳より發掘せるものにして　純金製薄板を環狀に繞らして上に五個の樹枝狀飾を樹て之には多數の硬玉製及び玻璃製の勾玉と無數の金瓔珞片を垂下し　十字狀に交叉したる冠帽飾の中央に黃金鳳凰の翔飛せる形を示し　此の種寶冠の中最も特色あるものとす　恰も御來朝中の瑞典國皇太子グスタフ・アドルフ殿下は考古學者として親ら此の發掘に參加せられ　金色燦然たる寶冠・帶飾・腕輪及び銅鐎斗・玻璃杯等を採り上げられたる光景　彷彿として今尚ほ眼前にあり　仍て此古墳は瑞鳳塚と命名せられたり　高三五

栢

Gold-Crown

Decorated with jade & glass beads "Magatama"
Found from the gold phoenix tomb at Keishu,
North Keisho Province　　　35 cm in Height



純金製銙帶及腰佩飾　—三國時代新羅—

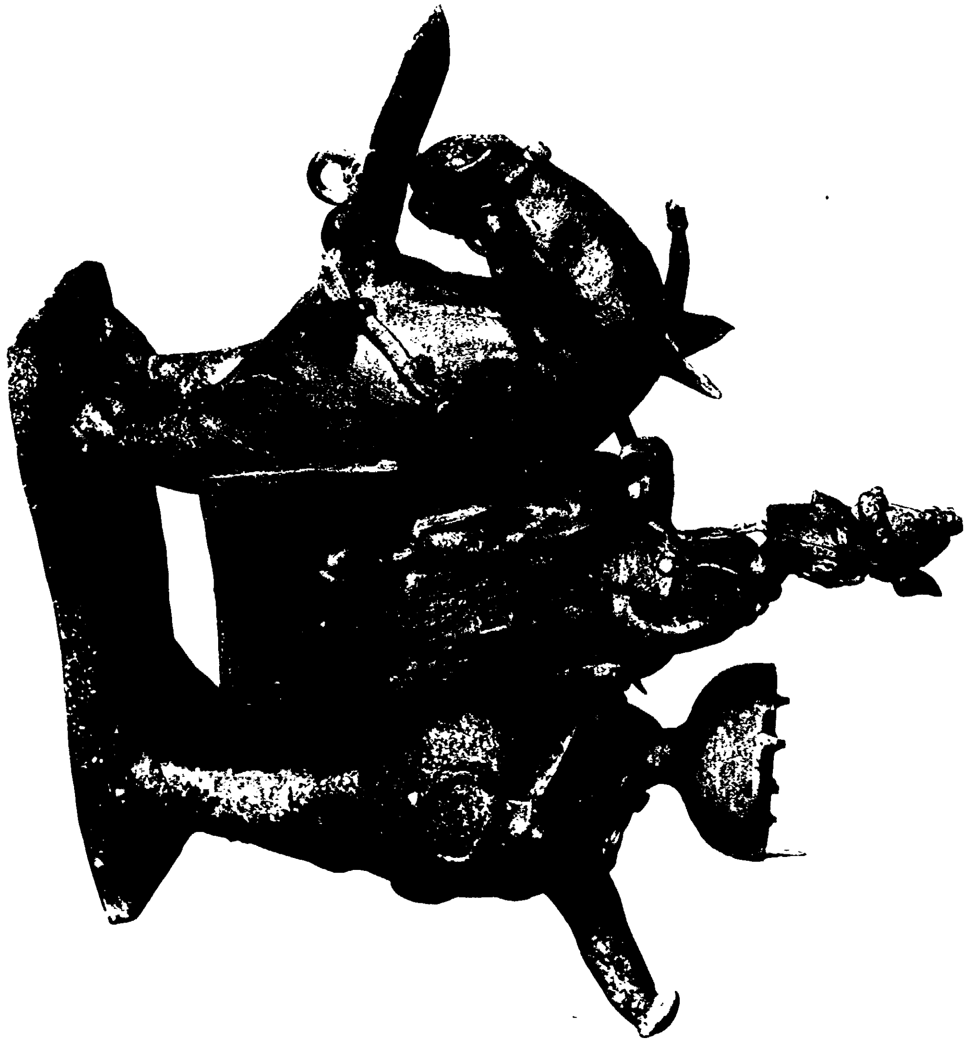
慶州路東里瑞鳳塚より純金寶冠其他の裝身具と共に發見せられ新羅の王者の豪華なる儀容を知るべき貴重なる遺品とす　銙帶及佩飾の構造は三國時代の他の新羅及び任那の古墳發見品と相一致するも何れも純金製薄板を打ち抜きて作り彼の金冠塚出土の純金製帶金具に劣らざる精巧さを示せり

Gold Belt Ornaments & Pendants

Eound from the gold Phaenix tomb at Keishu,

North-Keisho Province　　Age of three Kingdoms

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records



陶製騎形容器

—三國時代新羅—

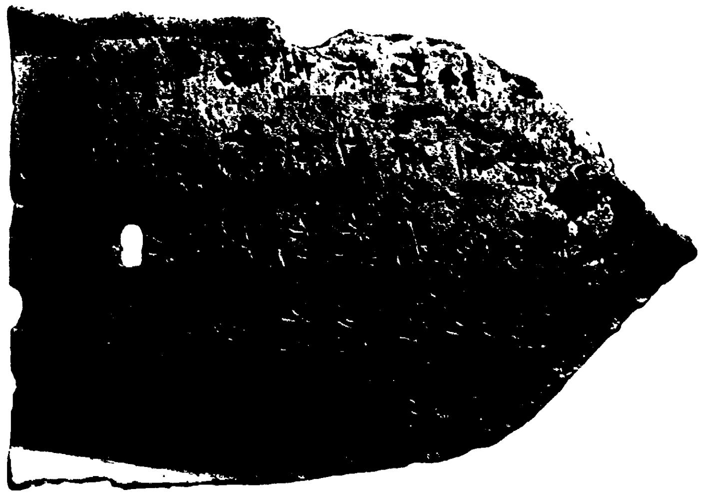
大正十三年秋慶尙北道慶州郡邑內路東里金鈴塚發見の象形陶容器の一にして黝黑色にして質硬く三國時代に於ける最も發達せる窯法を示す　器は着裝せる馬上に武裝せる人の乘れる形にて馬と騎者とは分離せるものあり　馬背の雲珠狀の盃は此器の口にて馬腹の空洞に連り前胸部の突出せる嘴注口に達す　其の構造の特異なるに加へて形狀精巧を極め武裝の實際及び馬具の着裝狀態を知るに足るべき得難き資料とす　高二四糎

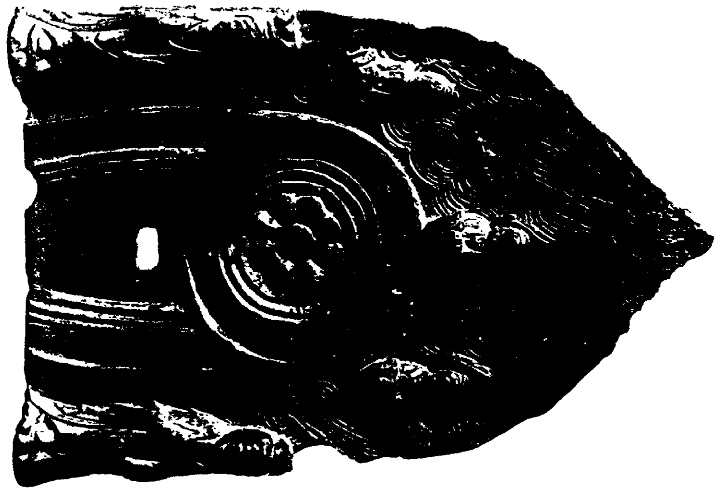
Horse-Man Shaped Vase

Found from the Gold-Bell tomb, at Keishu, North-Keisho Province

Age of three Kingdoms　　24 cm in Height

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records





有銘金銅佛光背　—三國時代—

大正四年五月黑板本府古蹟調査委員が忠淸北道忠州邑にて一私人の所有せるを見出され後本府博物館の有に歸したるもの　今光背のみにして中尊釋迦を失へるは遺憾なれどその背部に刻銘あり

建興五年歳在丙辰
佛弟子淸信女上部
兒奄造釋迦文像
願生生世世値佛聞
法一切衆生同此願

とよまるその左右脇侍及び化佛・蓮華文等亦所謂三國佛の式を襲ふて最も雄勁典雅の趣を示せり

高一二・三五糎　下幅八・七糎

Buddhistic Jewel-Shaped Halo

Gilt Bronze

With Dated Inscription

Age of three kingdoms　　12.3 cm in Height

月精搗藥文瓦當　―新羅統一時代―

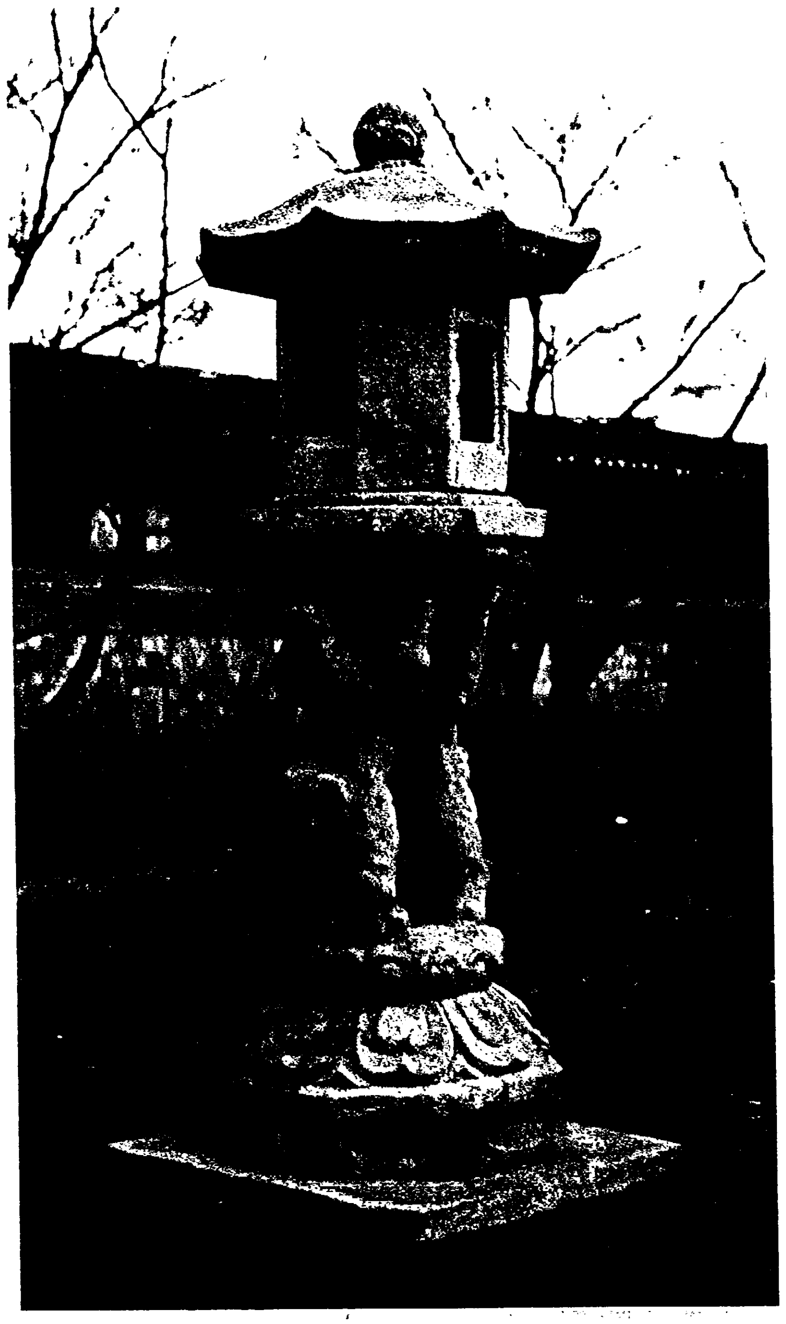
慶尚北道慶州郡慶州邑外皇龍寺附近より發見せるものにて極めて細き周緣を繞らし中に新羅統一時代瓦當中曾て其例を見ざる特殊なる模樣を彫出す　卽ち中央部下端の大甕中より生せし瑞花滿開の靈樹を中心となし　右に仙兎左に蟾蜍の欣喜雀躍せる樣を象りしものにして　一見して月精搗藥の故事を現せしものなることを推知するを得べし　彫刻の手法新羅統一時代の特徵を示し　黝黑堅緻の燒成法は又當代瓦當のそれに一致す　實大

Roof-Tile

Shilla Dynasty

Found near Keishu, North Keishō Province

About actual size.



雙獅子石燈

—新羅統一時代—

本石燈は元全羅南道光州郡玉龍面雲坪里中興山城内の一寺址に存在せしものにして　昭和六年本博物館前庭に移建す　全高二、五米　良質の花崗岩を以て造る　方形基盤の上に周囲に格狭間上に重瓣の蓮華を彫刻せる八角形基壇を重ね　上に蓮座を踏んで左右より立ち前肢にて八角形蓮盤及火袋石を捧げたる雙獅子を以て竿石となす　蓋石は極めて緩傾斜の八角形を呈し其頂部には寶珠形をなせる蓮華を置く　其形式工作の手法極めて優秀なると共に剛放雄健なる雙獅子の意匠は忠清北道法住寺石燈に酷似し新羅一統時代に於ける代表的遺品の一と云ふべし

Stone-Lantern

Removed from the ruined temple
in South-Jenra province
Silla Dynasty　2.5 m in Height

飛天彩畫銅板　―高麗時代―

此種彩畫銅板は開城附近に於ける高麗時代の古墳より屢々發見する所にして　六枚又は五枚を以て一組とし　四方に四神象を上に飛天を配すること高句麗壁畫古墳の夫れとも一致し又高麗時代の石棺面の彫刻に多く見る所にして　思ふに木製小棺の四方に附したるものなるべし

圖示のものは銀淦の長方銅板に墨線素描をなし白・紅・黄・綠・群青等の極彩色を施せる飛天を描き四隅及び上下に鋲孔を穿つ　花盤を捧げて輕翔飛舞の天女は極めて流麗輕妙の筆致を示し　高麗時代の繪畫として最も良く保存せられたるものとす　實大

Buddhistic Angle
Painted on the Bronze Plate

Korai Dynasty　Actual size

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

鐵砂葡萄文壺

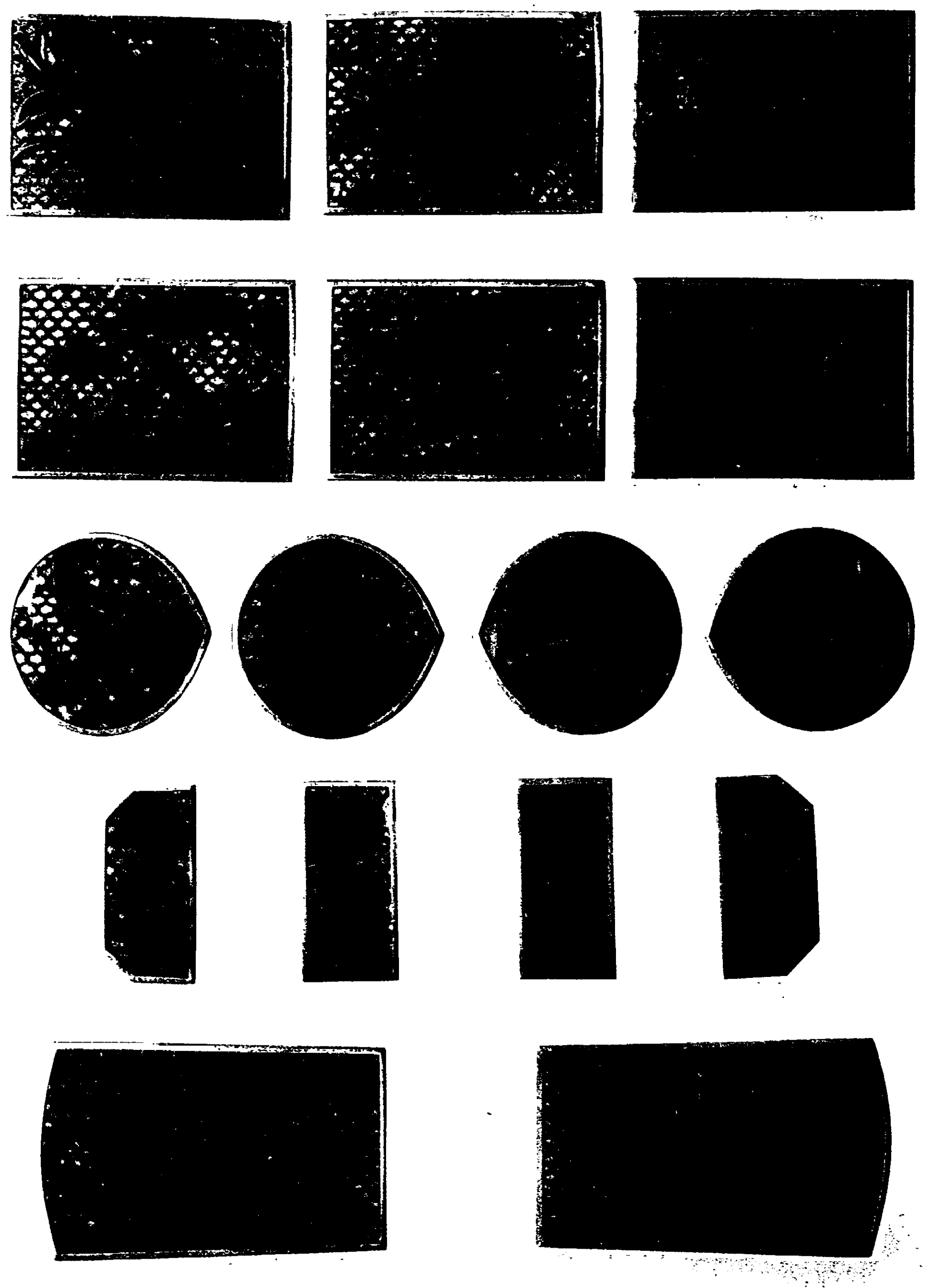
—李朝時代—

李朝陶器の特色ある形式を持つ廣口壺にして肩より胴部を繞りて一聯の葡萄を描き其の豪膽たる筆法巧なる蔓葉果實の布置は定に名書を思はしむるものあり　口縁部を繞りて雷文あり　其手法素地に文様を薄く陰刻して鐵砂を嵌し然る後白色釉を施したるものにて高麗時代に先づ試みられ李朝鐵釉陶器に多く其例を見るものとす　全體青みを帶びたる灰白色を呈し赤褐の葡萄青褐の枝葉と共に頗る良く落付きを見せ肩張りすわり穩にして李朝陶器の一優品たるを失はす　高三一糎

Glazed Jar

Late Li Dynasty　　31 cm in Height

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

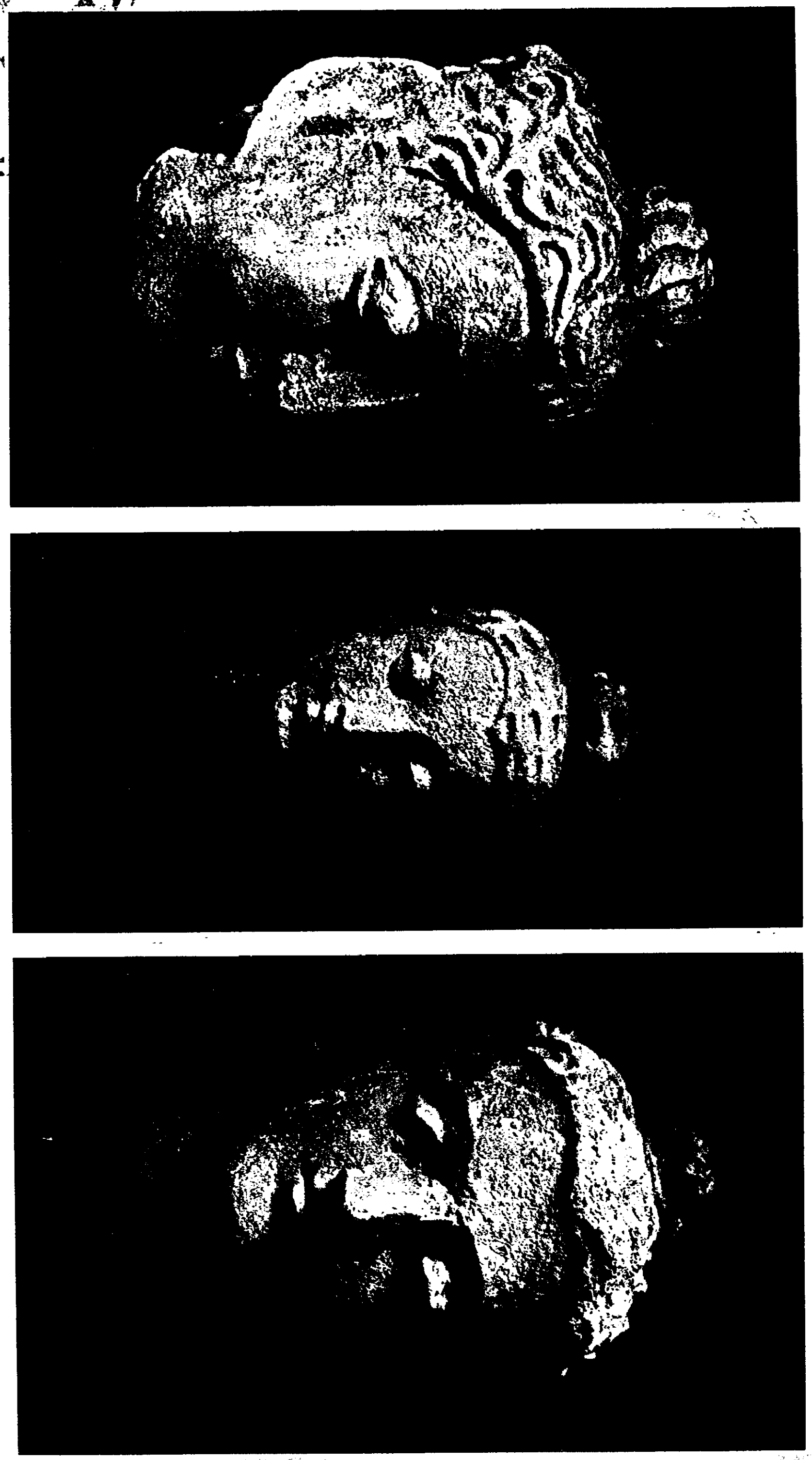


鼈甲銙帶飾板　—李朝時代—

高麗朝以來文官の朝服に用ゐる銙帶は其の飾板に玉・石・木・竹・骨・甲の各種ありて支那よりの移入品又は其の模倣に成るもの多きも亦其の彫刻意匠に於いて其の製作材料に於いて朝鮮獨得の趣味と技工とを示せるもの少からず　圖示せるものは其の最も優れたる一例にして　鼈甲薄板に各種の透彫を施し裏面に金箔を敷き重ね四周に銀製の縁を附して固定せしめたり　彫刻文様は禽獸・花樹・果實より文房具・樂器等に至り　意匠の奇抜なると共に彫法の纖細なる李朝中期以後に於ける工藝の一端を見るに足るべし

Belt-Ornaments

Made of Tortoise shell　　Late Li Dynasty



ハッダ發掘佛頭

佛蘭西の一九二二・三年に亙るアフガニスタンに於ける考古學的探検は學界に多大の成果を齎したり　ハッダに於ける佛跡の發掘はその一なり　こゝに掲ぐる佛頭三個はその際の發掘にかゝるものにして巴里のギメー博物館長アッカン氏の好意によりて本府博物館の有に歸したるものなり　佛頭は白色のスッツコをもつてせる塑造　もと壁間等に高肉に造立せられたるものなり各面貌にはガンダーラの色調に加へて所謂西域調の色濃きを看取すハッダの地は玄奘の西域記にみゆる醯羅城にして南行ガンダーラ國に通ずる道筋に當れり．佛頭は中央のもの高七・二糎　向而右一四糎　同左一二・一糎

Stucco-Heads

Found at Hadda. afghanistan

Gift from Dr. J. Hacken, Director of the Musée Guimet, Paris　　　About actual size

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records